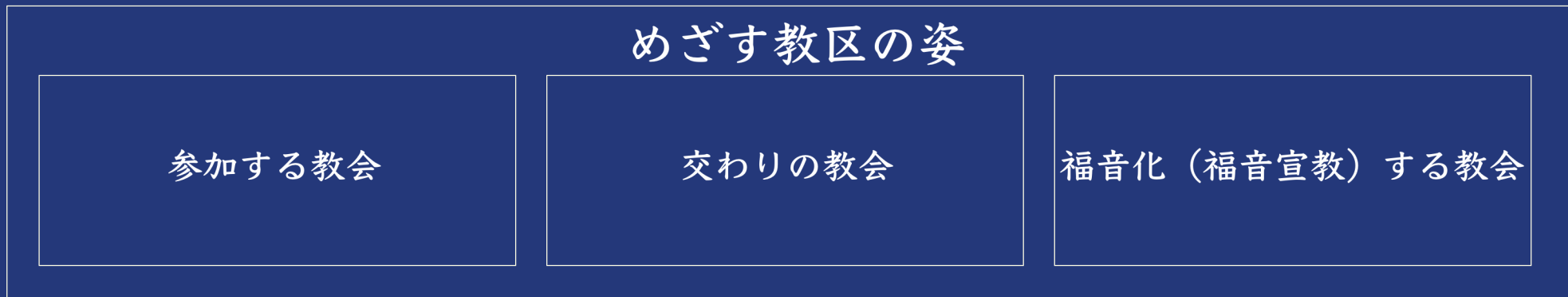


「目標」にしたい小教区像



*私たちが下記の「四つの要素」を備えた小共同体をつくりあげ、そして、その小共同体の集いに参加し、「み言葉の分かち合い」を通して信仰の交わりを深め、一人ひとりの信仰における喜びを体験し、その信仰者としての姿が、周囲の人々に、神の愛の素晴らしさを伝える結果につながる。
つまり、生き生きとした小共同体が小教区全体を活性化し、さらに教区全体へも波及効果をもたらすこと、それが、司教様の提示された上記の「めざす教区の姿」へとつながっていくのではないのでしょうか。

小共同体の四要素

<p>・生活の場（家庭、職場などで、集う</p> <p>小共同体のメンバーは、基本的に近隣の人たちがそれぞれの生活の場で集まる。 集会は、定期的に行われる。</p>	<p>・「み言葉の分かち合い」をする</p> <p>定期的な「み言葉の分かち合い」を繰り返しながら、参加者たちは、キリストとの個人的な親しい交わりの中で日常生活をおくることができるようになる。 「み言葉の分かち合い」の初めのころに用いる聖書は、四福音書がよいとされる。</p>	<p>・活動</p> <p>小共同体のメンバーは、お互いに助け合いながら、グループ単位でなら行えるようになる。 そして、地域の出来事に興味をもち、社会活動などにも積極的に関わっていきけるようになる。</p>	<p>・教会と常に一致</p> <p>それぞれの小共同体は、小教区共同体と固く結ばれること、そして、教区やカトリック教会全体とも一致しながら自分たちの活動を行う必要がある。</p>
--	--	---	--

教皇様のことば

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1999年11月、インドにて使徒的勧告「アジアにおける教会」を発表なさいました。
その中で、教皇様は、「教会基礎共同体（小共同体）は、小教区と教会における交わりと参加を促す効果的な手段であり、福音化のための本物の力です。これらの小さなグループは、初期のキリスト者のように、信じ、祈り、愛する共同体として生きることができるよう信者を助けます。そしてその目的は、そのメンバーが兄弟的な愛と奉仕の精神のうちに福音を生きるように助けることにあります。したがって、教会基礎共同体は、愛の文明の現れである新しい社会を建設する確かな出発点なのです。」（使徒的勧告「アジアにおける教会」25項参照）と、述べておられます。

私たちが目標とする教会像は、全教会がめざしているものでもあるのです。